



④ 須藤大輔作

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
				皇				銀	二
			●						三
				龍	銀	銀	銀	王	四
								王	五
									六
			●			●			七
									八
									九

▲なし

13銀成、同桂、23銀上不成、24玉、14銀成、同玉、33銀成、54香、23銀不成、24玉、34成銀まで11手詰  
(「上」は「うえ」でなく「あがる」と読む。)

玉と龍とのあいだに並ぶ3枚の銀をどうさばく？  
初手、脇の甘い駒なので、どの銀で23不成と王手しようとヌルヌル逃げられてしまいます。

正解は13銀成。たいては同玉なら23銀上成、14玉、53銀まで。24玉なら23銀上成、34玉、33成銀、同桂、23銀不成、24玉、14成銀まででどちらも早い。

2手目同桂のあと、23銀上不成、24玉、14銀成と軽くさばき、同玉に33銀成が決め手となります。

⑤ 沖昌幸作

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								皇	一
								王	二
			●				香	桂	三
					馬		香	桂	四
								香	五
			●			●			六
									七
									八
									九

▲金金銀桂

22金、13玉、12金、同玉、13金、同玉、22銀、12玉、24桂、同金、13銀成、同玉、22馬まで13手詰

早く解ける人はひと目で13桂が邪魔駒だと見定めます。4手目まではそれを〈間接消去〉する手筋。

そして空いた場所に金を打ち捨てるのが気持ちのよい手、銀を22にすえるのは24玉と逃げた場合に33銀不成を用意する含みもあります。

8手目12玉、24桂、同金と退路をふさいだあと邪魔駒と化した銀をこれは直接消去して収束します。

なお、読みとばされた方もあろう4手目23玉の変化では、24銀、12玉、22金以下の寄せも要確認ですよ。

⑥ 柴田三津雄作

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								香	一
								香	二
			●					王	三
		馬						王	四
					金				五
			桂		飛				六
					銀		?		七
									八
									九

▲飛角

35金、同玉、36銀、46玉、47馬、55玉、33角、同銀、65飛、44玉、45飛、34玉、35銀、45玉、46馬まで15手詰

筋がつかみにくいうスボスボ作ですが、合駒も開き王手も現れません。変化や紛れをていねいに読んでいけば正解にたどりつけるはずですよ。

初手は35金。たいては13玉は14飛、同玉、25角、13玉、16飛まで。正着の同玉には36銀と上がります。24玉なら25銀、同玉、47馬、35玉、25飛、34玉、52角、33玉、43角成まで。26玉なら35角、15玉(37玉は47

馬、28玉、29飛、18玉、27銀まで)、16飛、同玉、52馬、15玉、25馬まで。したがって4手目は46玉で、47馬、55玉のときに33角捨てが決め手となります。あとは65飛以下の詰め。

手順中、飛車が2枚ともすっぽ抜けて取られるところは、趣向とも言えましょう。